

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071200630		
法人名	社会福祉法人福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム安養		
所在地	福岡県福岡市西区生の松原3丁目13-15 (電 話) 092-881-9904		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 26 日	評価結果確定日	令和 5 年 2 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな住宅街に建っています。テラスを開くと日差しが降り注ぎ、暖かい中でレクリエーションを行ったり、ティータイムを楽しんだりしています。家事やレクリエーションをする中で、入居者様は毎日生き生きと暮らしております。職員は笑顔で入居者様の支援を行い、互いに家族のように寄り添いながら生活をしています。介護福祉士の配置が多く、知識や技術に優れており、インフルエンザは勿論、コロナウイルスについてもしっかり予防ができています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 5 年 1 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は閑静な住宅街に位置し、ケアハウスやヘルパーステーションが併設されている2ユニットの事業所である。近隣には、池や松林のある公園があり、利用者の散歩コースとなっている。居室は全室、庭に面しており、自然光が差し込んで明るく、リビング等の共有空間は、季節感を感じられるように飾り付け等がなされている。職員の8割が介護福祉士の資格を所持しており、専門性を発揮しながら介護サービスが提供されている。理念に基づき、安心・安全な暮らしの支援に努めるとともに、時間に捉われず、ゆったりと心豊かに暮らせるように心がけている。コロナ禍においても、感染対策を強化しながら外出の機会も積極的に設けており、利用者の気分転換に配慮している。協力医療機関と連携しながら看取りを実施する等、利用者が最期まで安心して暮らせるよう努めている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念から新たに安養独自の分かりやすい理念を作成し、職員へはミーティング等で共有しています。また、業務遂行については、個人の価値観ではなく、事業計画に基づく動きを指示しています。	法人の基本理念と別に、職員の意見が反映された事業所独自の理念や方針を掲げている。個人の価値観だけでなく、理念に基づいた介護を行うように、管理者は日々のミーティングや新人教育等の機会に、理念の大切さについて説いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加や園児交流・合同での避難訓練等を計画していますが、コロナ禍に於いて再開はできていません。	コロナ禍のため、行事を通じての地域交流は難しい状況が続いているが、清掃活動やリサイクル活動に参加している。また、近隣の幼稚園児が作った作品を展示する等、利用者が地域と繋がりが持てるように努めている。専門学校や大学からの実習生受入も積極的に行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、一部公民館での活動が中止の中、戸別に訪問し福祉相談などができるよう民生委員へ声掛けしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	代表家族を選び、開催を模索していますが、実施できていません。活動報告や広報紙を活用しています。また、面会時にお話をしています。	会議の開催頻度は2ヶ月に1回とし、構成員は利用者、家族、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員となっている。コロナ禍では書面開催とし、運営状況等を報告している。併せて電話での連絡も行い、意見を聞いている。直近ではコロナ対策等の意見を多くいただき、事業所内での感染対策強化に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や質問などでは連絡をしていますが、積極的な取り組みには至っていません。	日頃から行政手続き等で窓口へ出向いたりしている。コロナ禍では電話やメールでのやり取りが増えているが、必要に応じて連絡や相談を行っている。また、行政からのアンケートや調査等に積極的に協力し、良好な関係が構築できるよう努めている。コロナ禍前は勉強会の講師等を依頼していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3月に1回、委員会活動を行っていますが、身体拘束はありませんので、勉強会となっています。年に1回以上、外部の研修へ参加し、施設での勉強会を開催、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関は開設時からオートドアであり施錠されていますが、夏場は風通しの為、開いている時もあります。	玄関は施錠しているが、近くに詰所があり、利用者が外出する際は職員がその都度、開錠し、見守っている。夏場は開放時間を設けている。また、居室は庭に面しており、自由に出入りできるようになっている。職員は、3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を実施し、勉強会等を通じて身体拘束をしないケアの実践に努めている。	玄関の施錠は身体拘束に該当するので、開錠に向けた検討をお願いしたい。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会時、不適切ケアと思うケアを記入し、取りまとめを実施しています。業務中に於いても互いに注意し、防止に努めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期は職員が権利擁護推進研修へ参加し、虐待・身体拘束を始め、高齢者の権利について勉強会を行っています。今の所対象者は居ません。	権利擁護の制度については、パンフレットを用意し、契約時や必要に応じて家族に説明している。一部の職員は外部の権利擁護推進員養成研修に参加しており、職員への伝達研修を実施する予定である。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明書をかみ砕いて説明し、契約書に関しても同様に時間をかけ、納得されるまで説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時や電話などでお尋ねしています。特に、課題については（例：面会について）こちらから投げかけ、返事を頂くようにしています。	日頃から利用者の要望や意見に耳を傾け、可能な限り介護計画やレクリエーション活動等に反映させている。家族の意見については、意見箱や電話連絡にて伺い、連絡ノートを通じて職員間で情報共有し、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題・課題が起こらないよう、起こった時は速やかに解決できるよう定期的に面談を行っています。その場で解決出来ない時は持ち帰って検討しています。	管理者はミーティングや個別面談を通じて職員の意見を聞き、課題に応じて解決するよう努めている。職員が様々な悩み等を相談しやすい雰囲気になるよう努める等、働きやすい職場環境づくりを目指している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力を考え、得意なことを伸ばせるよう配置や仕事を割り振っています。年2回、自己申告書や到達度など考えています。やりがいや休暇を取るための体制が出来ており、働きやすい環境が整った職場です。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職場では得意な所を伸ばすことができるよう配慮しながら、配置や仕事をお願いしています。採用については経験値より先入観なく人柄を大事にしています。	職員の採用は性別・年齢を問わず、幅広く行われている。スキルアップのため、資格取得の支援や希望に応じた配置転換等が行われている。介護福祉士の資格取得者や勤続年数10年以上の職員も多く、事業所は職員が生き生きと働くことができるよう努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者だけでなく障害者の方の人権も外部の研修会へ参加し、施設内で勉強会を行っています。	人権教育については高齢者や障害者等の人権を学ぶ機会を設けている。また、近年、求められている様々なハラスメントやメンタルヘルスケア等についても外部のオンライン研修の受講し、事業所内でフィードバックする等、職員に対する教育・啓発が行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力を考えて教育を行っています。ティーチングではなく、コーチングを多用し、考えて自身で解決出来る力が身につくようにしています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で顔見知りになった方々と情報交換を行ったりしています。地区部会への参加も行っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の段階で本人・家族が困っている事をヒヤリングし、相談援助を行い、適切なアドバイスを行っています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から本人・家族が困っている事や不安をヒヤリングし、相談援助を行い、適切なアドバイスを行っています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望に沿えるよう他のサービスの勘案しながら相談援助に努めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や出来る事を考え、本人に要望を聞き、一緒に活動が出来る様に努めています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の方やコロナ禍で面会できないなど、電話による近況報告やテレビ電話を利用した面会を行っています。本人の会いたい気持ちも大切に、家族と連携し、自宅へ帰る支援も行っています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と縁が続くよう手紙や電話による支援に努めています。特に遠方の方の面会については出来る限り対応しています。	入居時や日頃の関わりの中で、利用者の馴染みの関係について把握するようにしている。友人に訪問していただく機会を設けたり、年賀状や手紙のやり取り等について支援している。また、外出時に元々住んでいた自宅周辺に立ち寄る等、馴染みの関係を大切にしながら過ごして頂くように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関係よく交流できる様関係性にも配慮し、時には席替え行い、まんべんなく交流が出来るよう支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かの理由で異動の際は相談援助に努めています。その後についても希望があれば相談支援を行っています。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らし方については、本人様にも聞き取り、ケアプランにも反映させています。聞き取りが困難な方にも家族へヒヤリングを行い、本人にとってベストなものにしています。	難聴の利用者にホワイトボードを活用したり、言葉が出にくい利用者は表情から汲み取る等、家族に以前の生活を聴きながら、利用者の思いや意向の把握を行っている。「自宅に帰って片付けをしたい」と要望があり、職員が付き添って自宅に外出する等、利用者の思いに沿った支援をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や現在利用中のサービスを事前に確認し、引き続き同じ支援ができるよう努めています。また、適宜見直しを行っています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初めから無理をせず一緒に会話をしながら安心できる環境で出来る事や楽しめることを記録に残し、プランへも反映させてます。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や病院・利用していたサービスなどから情報を収集してます。現に居室担当を含めた職員と意見交換し、プランを作成しています。	利用者の担当職員を中心に、家族や利用者の希望、介護職員や医師、歯科医師、訪問看護師等の意見を聴き、個別的で利用者本位の介護計画書を作成している。3ヶ月ごと、または状態変化に応じて介護計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や伝達ノートを活用し、情報の共有に努め、日々のケアに生かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況を把握してます。現状提供しているサービスだけでなく、臨機応変に対応しています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域資源については活用できていませんが、道路清掃やゴミ拾いなど個人でもできる活動をしています。もの作り行事を増やし、能力を発揮でき得る場を持っています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はありますが、出来る治療が限られているため、入居時に家族の希望を伺いながら適切にアドバイスを行っています。また、協力病院とは年3回、合同ミーティングを行い、意見交換しています。	利用開始時に通院状況や受診病院の確認をしている。協力病院以外の受診は、家族に受診時の支援について協力をお願いしているが、受診時は職員も付き添い、医師に状況報告している。受診結果は、随時家族に報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は24時間体制で対応できるようにしています。日頃の状況や受診などの情報は共有し、指示を頂いています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	スムーズに入院出来るよう日頃から外来看護師に相談にのって頂いています。入院中も定期的に情報を収集し、状況にもよりますが、2週間以内の早期の退院を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から急変時の対応や治療の意向を話し合っており、希望に添う支援を行っています。看取りに関し、必要な医療の説明や費用についても説明しています。また、定期的に看取りの勉強会を行い、スキルアップに繋げています。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針が明文化されている。利用開始時や状態が変化した時に看取りの説明と意向確認をしている。看取りを希望された時は24時間訪問診療が可能な病院と契約してもらっている。利用者や家族の意向を大切にして、職員や医師と一緒に話し合いをして、方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で研修を行っています。応急手当普及員もあり、部署に於いても研修を行っています。消防の研修にも参加して頂いています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との避難訓練の計画を立てたり、運営推進会議に町内の方の参加を頂いたり、安養の事を知って頂く機会を設けています。災害時は法人として地域にシェルターとして解放しています。非常食や飲料水も3日分備蓄しています。	避難訓練は、年2回併設のケアハウスと合同で実施し、内1回は夜間想定で避難訓練や避難経路の確認、消火器の使用について実施している。避難訓練を実施する際に、地域住民に呼びかけていない。備蓄は食料や飲料水は3日分を事業所内に準備している。	非常時には地域の協力が不可欠であり、運営推進会議や民生委員、行政等を通じて地域住民に訓練参加の協力を呼びかけてほしい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	忙しくとも正しい言葉かけを意識しています。特に排泄に関しては配慮しています。	トイレの時はドアを閉める、入浴時は可能な範囲で同性介助をする等、利用者の人格を尊重しながら介護している。外来者の前で利用者のプライバシーに関する話をしないようにしている。内部研修の開催のほか、日々管理者が点検し、プライバシーの配慮について意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が表せるような声掛けを行っています。入浴など「入りたくありません」と言う入居者に無理強いはいしない様になっています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時は本人のペースで起床・食事としています。片付けや掃除などは一緒にするなど配慮し、入居者を優先して業務を行っています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TP0や気温などに配慮した本人好みの服を着ていただくようにしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手の清潔を保ち、食中毒に注意しながら盛り付けを行っています。途中、出来栄を声掛けしながらやるを引き出す支援を行っています。片付けも職員と一緒に洗う物を行っています。	利用者と職員と一緒に、配膳やもりつけ等の食事の準備、食後の片づけや食器洗いをしている。焼きそばや炊き込みご飯、スイートポテト等利用者が食べたいものを職員と一緒に作ったり、誕生日の時は、ケーキを作り、職員と利用者が一緒に食べる等、食事を楽しめる工夫をしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形態の工夫・提供量の調整などを行っています。状況においては、好みの補食や飲み物を増やして摂取量の確保しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況を確認しながらブラッシングの援助を行っています。訪問歯科の無料検診などを利用し、口腔内の清潔保持に努めています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを把握し、布の下着が使えない要因を分析し、下着の変更に努めています。紙へ変更しても汚染しないような誘導を行い、使用頻度の削減に努めています。入所から沢山のパット類の使用でも、家族と相談しながら無駄を減らす支援を行っています。	トイレに行かれている姿を見かけたら、必要に応じてパットを持参し、声かけをしている。尿意・便意がない利用者には、排泄パターンを見ながらトイレ誘導をしている。また、失禁した時は、さりげなくトイレに誘導している。利用者の状況変化時はオムツやパットの種類、使用する時間帯の見直しを常に行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本は身体を動かす機会を設けたり、水分摂取に注意していますが、主治医に相談し、適量の緩下剤の使用し、便秘予防に努めています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	生活歴に合わせた対応を行っています。毎日入りたい方や夜入りたい方へも臨機応変に対応しています。	毎日入浴できるように準備している。できるだけ浴槽に入ってもらうように、必要に応じて二人介助で対応している。入浴を望まない利用者には、声かけの工夫等を行っている。入浴剤を使用したり、ゆず湯やしょうぶ湯をしたり、一緒に歌を歌う等、入浴が楽しめるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の睡眠状況に応じ、昼間の活動や日光浴も取り入れ、室温や灯りの調整しながら安眠に繋いでいます。眠れない時はリビングで暖かい物を提供しています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬情と照らし合わせながらセット作業を行っています。新たな処方薬も伝達ノートや日報に記入し、把握できるように努めています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物・洗濯干し・ゴミ出しなど個々が役割を持つ支援をしています。趣味や好きな物に合わせたこと（物）の提供を行い、気分転換に繋いでいます。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	立場や状況を考え、コロナ禍でも自宅へ帰ることができるように支援しています。帰宅願望のある方へも自宅近くまでドライブへ行くなど支援しています。「外へ出たいよ」と言われる方へも臨機応変に対応しています。	コロナ禍のため、散歩やドライブを中心に外出支援をしている。気候が良い時期は、ほぼ毎日事業所の庭や公園に散歩へ行っている。コスモスや桜等の花見、海へのドライブに月2回ほど家族の協力を得ながら、外出支援を実施している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物へ行く際は少額ですが支払う場面を作ることがありますが、基本は立替金で対応しています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	節目のあいさつや贈り物が届いた時等、電話や手紙を書く支援を行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りを入居者と作ったり、飾ったりし、季節を感じて頂く支援を行っています。共用部はトイレや風呂など分かりやすい目印を掲示しています。	リビングの壁には、利用者と職員と一緒に作成した季節の飾り物が飾られている。リビングは家庭的で温かみがあり、日差しはカーテンで調整している。テレビは利用者が好まれる歌番組や相撲、子供や動物が出る番組をつけ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席を移動したり、馴染みの方同士居室のソファでゆっくり過ごす工夫をしています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長く使用している思い出の物を持ち込んで頂くように伝えてます。家族（孫ひ孫）の写真や本人様の作品を飾ったりし、居心地良い空間にしています。	クローゼットやベッド、洗面台が各居室に備え付けられている。タンスや椅子、テーブル、テレビ等が持ち込まれ、家族写真やぬいぐるみ、利用者が作成した作品が飾られる等、利用者が安心して過ごせる居室となるよう努めている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置・各目印の掲示を行い、分かりやすい空間を作っています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念から新たに安養独自の分かりやすい理念を作成し、職員へはミーティング等で共有しています。また、業務遂行については、個人の価値観ではなく、事業計画に基づく動きを指示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加や園児交流・合同での避難訓練等を計画していますが、コロナ禍に於いて再開はできていません。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、一部公民館での活動が中止の中、戸別に訪問し福祉相談などができるよう民生委員へ声掛けしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	代表家族を選び、開催を模索していますが、実施できていません。活動報告や広報紙を活用しています。また、面会時にお話をしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や質問などでは連絡をしていますが、積極的な取り組みには至っていません。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3月に1回、委員会活動を行っていますが、身体拘束はありませんので、勉強会となっています。年に1回以上、外部の研修へ参加し、施設での勉強会を開催、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関は開設時からオートドアであり施錠されていますが、夏場は風通しの為、開いている時もあります。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会時、不適切ケアと思うケアを記入し、取りまとめを実施しています。業務中に於いても互いに注意し、防止に努めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期は職員が権利擁護推進研修へ参加し、虐待・身体拘束を始め、高齢者の権利について勉強会を行っていますが、今の所対象者は居ません。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明書をかみ砕いて説明し、契約書に関しても同様に時間をかけ、納得されるまで説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時や電話などお尋ねしています。特に課題については（例：面会について）などこちらから投げかけ返事を頂くようにしています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題・課題が起こらないよう、起こった時は速やかに解決できるよう定期的に面談を行っています。その場で解決出来ない時は持ち帰って検討しています。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力を考え、得意なことを伸ばせるよう配置や仕事を割り振っています。年2回、自己申告書や到達度など考えています。やりがいや休暇を取るための体制が出来ており、働きやすい環境が整った職場です。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職場では得意な所を伸ばすことができるよう配慮しながら、配置や仕事をお願いしています。採用については経験値より先入観なく人柄を大事にしています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者だけでなく障害者の方の人権も外部の研修会へ参加し、施設内で勉強会を行っています。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力を考えて教育を行っています。ティーチングではなく、コーチングを多用し、考えて自身で解決出来る力が身につくようにしています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で顔見知りになった方々と情報交換を行ったりしています。地区部会への参加も行っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族としっかりと話し、その方の現状に合わせた対応（アドバイス）を行っています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族・本人の意向を聞き取り、それに沿った対応を行い、信頼関係を築くよう取り組んでいます。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の把握に努め、どのサービスが適当か考え、提案しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーションを一緒に行い、困った事や不安なことに寄り添い、傾聴し、一緒に泣いたり笑ったり、助け合う関係を築いています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・本人に寄り添い、不安や悩み、困りごとを相談できる信頼関係に努めています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との連絡や手紙の支援を行い、外出の際は馴染みの場所へ寄ったりしています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーションの際に、席を移動していろいろな方とコミュニケーションがとれるようしています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要時は、相談援助を行っています。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族へ何をして生活したいかヒヤリングを行い、それに沿うようにしています。要望が出せない方へ家族と生活歴をもとに本人本位としています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から家族や本人と面談を行い、把握に努めています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作業やレクリエーションなどを提供し、出来る事を記録に残し、サービスに繋げています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	環境や生活歴・好みなどを勘案し、サマリや利用していたサービスの情報を収集し、本人にあったプランを立案しています。3カ月ごとにプランを見直し、改廃を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や伝達ノートを活用し、情報の共有に努め、日々のケアに生かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化にその都度対応していますが、難しい場合は代替え案を出したり実現の努力をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加・園児交流など地域への参加を行っていますが、コロナ禍で道路清掃などで地域へ貢献しています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はありますが、本人や家族の要望に応じて対応しています。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が月2回あり、それまでの変化や定期受診の報告、スムーズな外来受診が出来るよう支援しています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	訪問看護・外来看護師・先生と密に連携し、入院後も同様に行い、早期の退院に繋がっています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し納得頂き、しかるべき時が来た時は改めて看取りの同意書を頂き、関係各所と緊密な連携をとって対応しています。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人での研修・外部での研修に参加し、必要な知識を持つようにしています。ミーティングに於いても勉強会を行っています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を地域の方と行ったり、運営推進会議へ参加頂き、安養のことを知っていただくようにしています。法人の建物をシエルターとして開放しています。水や非常食を備蓄しています。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会を中心として、ポスターや口頭で注意喚起を行っています。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声掛けを行っています。意思を表せない人には、色をみていただき指で示して頂く等。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況状態に応じた支援を行っています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本本人に決めて頂いています。普段着・おしゃれ着を選択いただき、合ったおしゃれをして頂いています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け～片付けまで、入居者が活躍出来る場面を支援しています。作業は一緒に行い、清潔や安全を確保しています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形態や食器に工夫を行っています。必要に応じて声を掛け、食事介助を行い、バランスよく摂取いただいています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	身体状況に応じケアを行っています。訪問歯科に相談する等、清潔を保持しています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を行い、出来るだけトイレでの排泄を行っています。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かしたり、入居者に応じた好みの物の提供量を増やし、予防に努めています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者の希望で対応している。催事に合わせた入浴も楽しめるようにしています。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子を見ながら休息の声掛けを行っています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をいつでも確認できる様にしています。薬の変更や追加は、ノートや日報を活用しています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂き、達成感を持って頂けるよう援助しています。楽しみや好きな物の購入は個別に実施しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望によって、臨機応変に対応しています。コロナ禍で遠出の支援も行っています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニエンスストアの買い物では少額を持ち、支払いの場面も設けています。金銭に関しては、基本は立替金にしています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話はいつでもかけることができます。先方からあったものについても繋いでいます。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激については配慮し快適に過ごせるようにしている。季節感を感じて頂くよう飾りつけや作成は一緒に行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の状況により、テーブルや椅子の配置を変更しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身が使われていた愛用の物を配置し、好きな物を飾られています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアにカレンダーの配置、必要な所は大きく表示しています。家具の配置を変更し、自立支援に努めています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない